

国際監査基準(ISA)を巡る国際的動向

1. 「国際監査・保証基準審議会」(IAASB)と「国際監査基準」(ISA)について

世界の会計士団体の国際組織である「国際会計士連盟」(IFAC)の「国際監査実務委員会」(IAPC)は、1980年代から監査の国際的基準(1991年に「国際監査ガイドライン」(IAG)から「国際監査基準」(ISA)に名称変更)の策定作業を行ってきた。

2002年4月には、IFACの組織改革の中で、さらに品質の高い基準を策定するための組織強化を目指し、IAPCは「国際監査・保証基準審議会」(IAASB)として再編された。

「国際監査基準」(ISA)は、“高品質の世界的な基準の開発を目標”としてIAASBにより策定される基準であり、18名の理事からなるIAASBの理事会で策定・承認されることとされている。

(注)我が国からは池上玄公認会計士(企業会計審議会臨時委員)が理事として、山浦久司教授(企業会計審議会委員)がオブザーバーとして参加している。

2. 「国際監査基準」(ISA)を巡る国際的動向について

(1) 「証券監督者国際機構」(IOSCO)による「国際監査基準」(ISA)の承認

IOSCOは、1992年に一度暫定的にクロスボーダー取引における基準としてISAを「承認」したが、1994年に内容についての調整がつかず実質的にISAの「承認」は無効となった。

その後、IOSCOは国際会計基準の承認問題に取り組んでいたが、2000年5月の国際会計基準の「承認」以降、ISAの評価作業に再着手。現在、IAASBはIOSCOによるISAの承認を目指している。

(2) 欧州における「国際監査基準」(ISA)の採用の動向

欧州委員会(EC)は、「欧州連合(EU)における法定監査の強化」と題するコミュニケを本年5月に欧州理事会及び欧州議会に提示。その中では「ISAによる監査の2005年からの実施に向けた準備行動(実態調査等)を行い、その後、2005年からISA準拠を義務づけるための法整備を行う。」とされている。

(3) 「公益監督機関」(PIOB)の設立

IFACによるISA等の基準を設定する活動に対しては、国際的な規制当局(IOSCO等)及びIFACにおいて、公益の観点から監督を行う機関である公益監督機関(PIOB)を2004年初めに設立する取り組みが行われているところ。

(4) 「国際監査基準」(ISA)のコンバージェンスに向けた動き

最近のIAASBにおける動きとしては、2005年からのISAの採用を予定している欧州諸国のメンバーを中心として、各国の監査基準をISAにコンバージェンスすべきとの議論があり、IAASBがコンバージェンスの要件を定めた方針を承認しようとする動きがある。

国際監査・保証基準審議会 (IAASB) の概要

目的：国際監査基準 (ISA) の整備を担う組織として、国際会計士連盟 (IFAC) に設置。

名称：International Auditing and Assurance Standards Board

委員構成：3名=監査人以外の学界・財務諸表利用者・公共部門

5名=FOF の推薦に基づく大手会計事務所のメンバー

10名=整備された監査基準設定プロセスを有する国の会計士団体のメンバー (リエゾンの役割を担う)、それ以外の国のメンバー及び大手会計事務所以外の事務所のメンバーから選出

外部からの関与：規制当局、国際機関、民間業界団体などから構成される CAG と年間1~2回の会合を開いている。

最近の動向：IFAC による ISA 等の基準を設定する活動に対しては、国際的な規制当局 (IOSCO 等) 及び IFAC において、公益の観点から監督を行う機関である公益監督機関 (PIOB) を 2004 年初めに設立する取り組みが行われている。

(参考) 国際会計士連盟の機構

